

『トリロジ』（送る／届く／渡す）推進運動」共同宣言  
～鳥取県版「LOGISTICS」アクションプラン（8つの重点項目）～

「物流の2024年問題」に起因する時間外労働規制やドライバー不足により、荷物が運べなくなる危機に直面していることから、県民の生活を守り、更なる産業振興を図ることを目指して、「トリロジ」（送る／届く／渡す）推進運動に賛同し、鳥取県版「LOGISTICS」アクションプランについて、連携して実施することに努めることを宣言します。

- L** : <LOCALITY> : 誰もが取り残されないように、地域のロジスティクスを守る  
→地域の誰もが、荷物が届き、送られるようにするため、ラストワンマイルの輸送確保、幹線物流と端末物流の連携と役割分担及び首都圏への農水産品輸送等に関する対策の検討を通じて、地域のロジスティクスの維持及び発展に努めます。
- O** : <OPPORTUNITY> : 「物流の2024年問題」をチャンスと捉え、新たなロジスティクス改革へ  
→「物流の2024年問題」をロジスティクス改革の好機と捉え、モノの新たな輸送や保管方法の構築に向かう事業者の創出に努めます。
- G** : <GOVERNANCE> : 業務の「見える化」や適切な人材活用により、最適なロジスティクス管理へ  
→DX活用等によるロジスティクスの「見える化」、効率的な配車やルート管理、適切な人材活用を通じて、ロジスティクスの最適な管理に努めます。
- I** : <ILLUMINATING> : ロジスティクスに光を当てて、大切さについて知ろう  
→県民や事業者に、ロジスティクスに関心をもってもらうために、セミナー、イベント及び様々な広報媒体を活用したPR等、物流の大切さを伝える啓発活動の促進に努めます。
- S** : <SUSTAINABILITY> : モーダルシフトや共同配送等の活用により、運べない貨物をなくそう  
→鉄道や内航船等へのモーダルシフトや共同配送の活用、求荷求車システム（WebKIT）の利用によるトラック事業者間の相互協力の推進等により、運べない貨物をなくし、持続可能なロジスティクス網の構築に努めます。
- T** : <TOUGHENING> : 経済変動にも柔軟に対応できるようロジスティクスの強靱化を進めよう  
→物価や燃料価格高騰等の経済変動にも柔軟に対応できるよう、運送事業者による複合的な経営の促進、荷主企業と運送事業者の共同事業等、ロジスティクスの強靱化に向けたサポートに努めます。
- I** : <INFRASTRUCTURE> : ロジスティクスの基盤強化を進めよう  
→道路、港湾及び鉄道等、ロジスティクスの基盤となる交通網の維持、発展及び利活用の促進、倉庫等の物流拠点の発展等、ロジスティクスの基盤強化に努めます。
- C** : <COOPERATION> : 荷主と運送事業者との相互理解の促進、事業者間や域内との連携を深化しよう  
→荷主と運送事業者間の取引環境に関する相互理解の促進、異なる輸送モーダル間の協力、山陰地域等の域内における連携強化による物流ネットワークの発展等、ロジスティクスに関する連携に努めます。

令和5年12月19日

鳥取県商工会議所連合会 会長	児嶋 祥悟
鳥取県商工会連合会 会長	土井 一朗
鳥取県中小企業団体中央会 会長	谷口 譲二
鳥取県農業協同組合中央会 代表理事会長	栗原 隆政
境港鮮魚仲買協同組合 理事長	島谷 憲司
鳥取県トラック協会 会長	川上 和人
日本貨物鉄道株式会社 執行役員 鉄道ロジスティクス本部営業部部長	麦谷 泰秀
NX境港海陸株式会社 代表取締役社長	角田 祐道
株式会社上組大阪支店境港出張所 部長	野村 宏敏
厚生労働省鳥取労働局 局長	平川 雅浩
国土交通省中国運輸局鳥取運輸支局 支局長	西山 龍司
鳥取県知事	平井 伸治